

これから結婚・妊娠を希望される方へ



^{ふう}風しんとは？

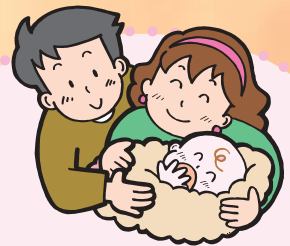
「三日ばしか」とも言われます。風しんウイルスの感染によって全身の発しん、発熱、首のリンパ節の腫れなどの症状が出ます。妊婦さんは特に気をつけなければなりません。

^ま麻疹とは？

「はしか」とも言われます。風しんと同じく、ウイルス感染です。麻疹は感染力がとても強く、患者さんの3割が肺炎、脳炎、中耳炎などを起こします。日本では毎年10～20万人の方がはしかにかかり、そのうち数十人が亡くなっています。最近、若い方で麻疹の免疫のない方が増えています。

先天性風しん症候群について

妊婦さんが風しんに感染すると、お腹の赤ちゃんも感染して、「先天性風しん症候群」になることがあります。重症の場合は、心臓の奇形、白内障、難聴、発達障害などの先天性異常が起こり、一生涯障害を残すこともあります。風しんにかかるのが、妊娠の早い時期であればあるほど、先天性風しん症候群が発症したり、重症化する可能性が高くなります。



妊娠中に、風疹の抗体がない、あるいは16倍以下と言われた場合、出産後の風疹ワクチン接種をお勧めします。

予防接種を受けましょう

風しんも麻疹も唯一の対策はワクチンの接種です。特に風しんは、1979(昭和54)年4月2日～1987(昭和62)年10月1日生まれの方は、接種率が低く、免疫のない女性が多いことがわかっています。もちろんこれ以外でも、子供のときに風しんにかかっていなかったり、予防接種をしていない方、また不明な方は、結婚・妊娠の前に、男性も女性もぜひ一度医師にご相談ください。また、すでにお子さんのいる方でも、風しんや麻疹にかかったかどうか分からない方は、一度医師にご相談ください。